

《資料編》

- 社会状況の変化
- 所沢図書館の現状
- 平成 29 年度市民アンケート調査結果（抜粋）
- 「第2次所沢市図書館ビジョン」策定経過

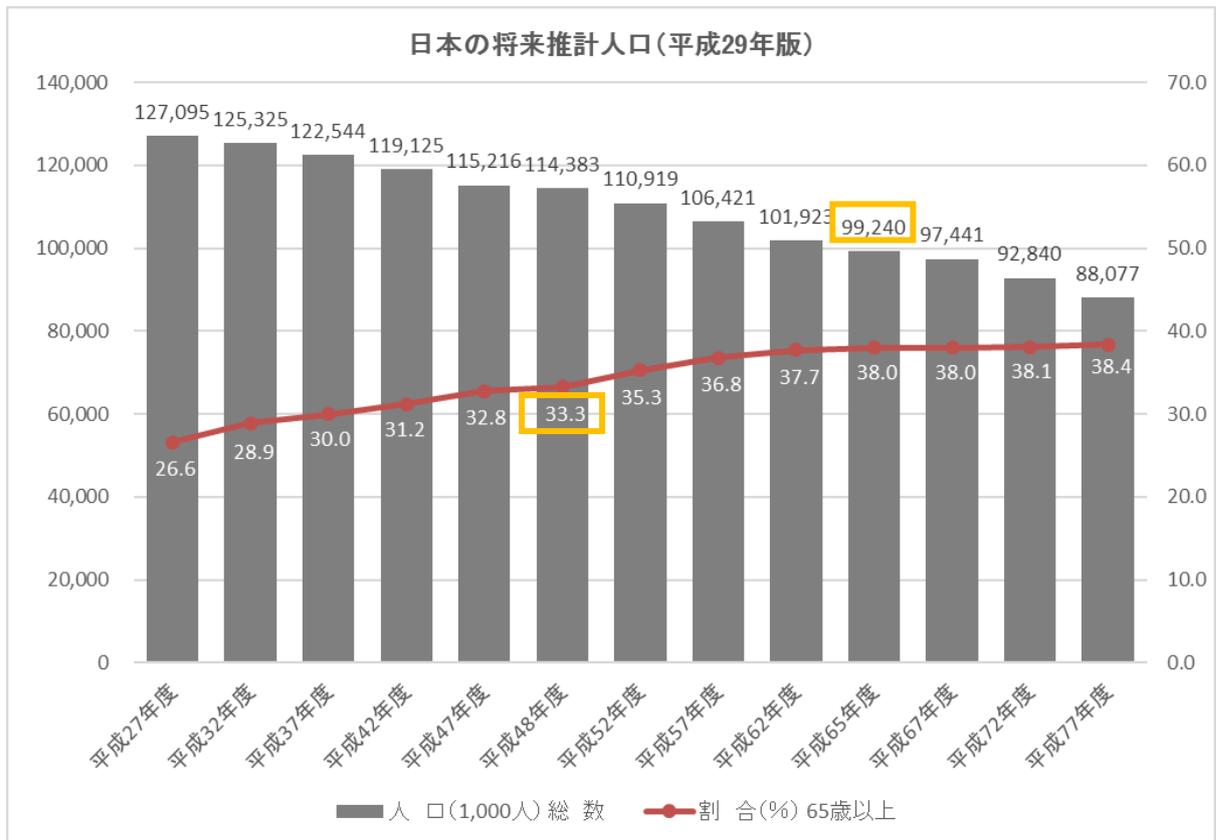
社会状況の変化

1. 第1次ビジョンからの社会情勢の変化

(1) 人口減少・少子高齢化

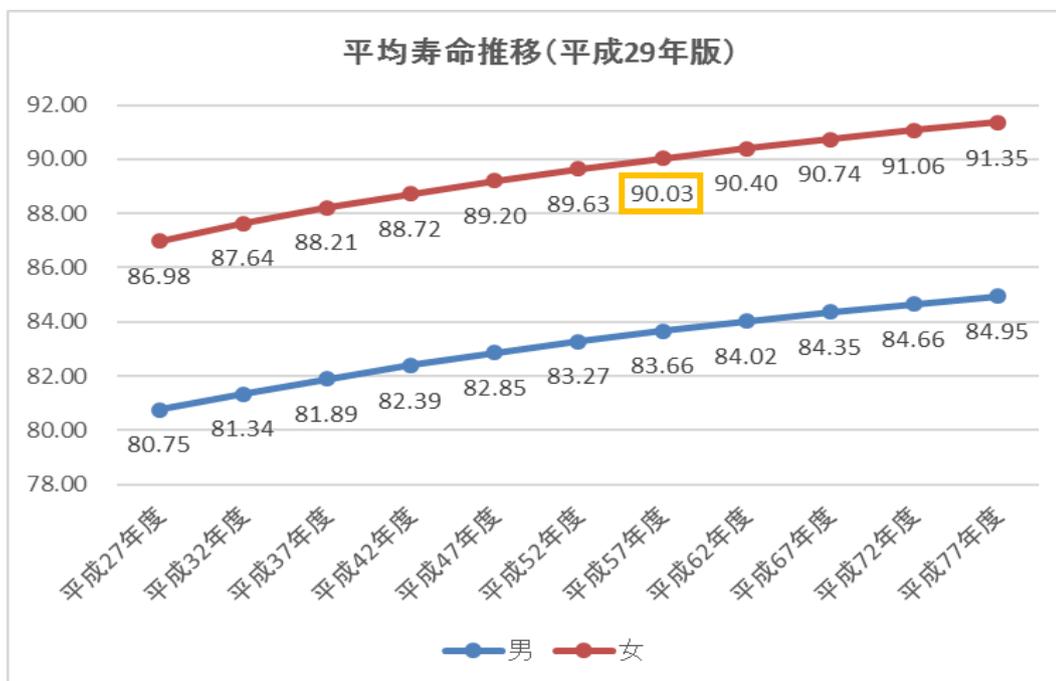
日本は人口減少、少子化とともに、世界に例をみないスピードで超高齢社会へと突入しています。

平成27(2015)年の国勢調査での総人口1億2,709万人から、平成65(2053)年には1億人を割って9,924万人に減少すると推計されています。そんな中、65歳以上の高齢者の割合は増加し続け、平成27年現在の26.6%から、平成48(2036)年には33.3%となり、3人に1人が高齢者になると予測されています。



(「日本の将来推計人口(平成29年推計)」 国立社会保障・人口問題研究所より)

また、平均寿命については、今後も延伸すると見込まれています。平成 57（2045）年には男性が 83.66 年、女性が 90.03 年となり、女性の平均寿命が 90 年を超え、平成 77（2065）年には男性が 84.95 年、女性が 91.35 年となることを見込まれています。



〔「日本の将来推計人口（平成 29 年推計）」 国立社会保障・人口問題研究所より〕

高齢期が長くなるにつれ、その期間をより充実したものにするためには、生涯にわたる教育、多様な学び直しの機会の提供が重要です。そして、誰もが活躍の場があり、元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会とすることが重要な課題となってきます。

(2) 自然災害

東日本大震災や度重なる豪雨災害、猛暑など、ここ数年、これまでの想定を超える地震や極端な気象災害が頻発しています。防災意識の高まりとともに、「地域のつながり」の重要性が増す一方で、災害や人口減少、高齢化によって、地域コミュニティを維持することが難しい状況も発生しています。

地域共生社会の実現に向け、「人と人との絆」を実感できる場の創出が重要な課題となっています。

(3) 経済状況

近年、「貧困と格差」が大きな社会問題になっています。特に子どもの貧困については、教育環境や学習機会に影響を与えることが懸念されています。

平成 28 年度国民生活基礎調査では、子どもの貧困率は 13.9%であり、ひとり親世帯の貧困率は 50.8%と半数を超えています。また、貧困が世代を超えて連鎖することも問題となっています。

(4) 高度情報化社会

ここ数年の情報通信技術（ICT）の進化は、社会のあらゆる場所に変化をもたらしています。スマートフォンの急速な普及やクラウドコンピューティング、ロボット、人工知能（AI）等の技術革新は、市民生活や企業活動に大きな影響を与えています。今後も、AI や IoT、ビッグデータ活用といったテクノロジーが、あらゆる産業や社会生活に取り入れられることで、社会が変革することが予想されます。

2. 図書館をめぐる社会情勢の変化

(1) 図書館に関わる法制等の動向

▶子ども読書活動推進計画

平成 13（2001）年 3 月「子どもの読書活動の推進に関する法律」
国においては、平成 30（2018）年 4 月「第四次子供の読書活動の推進に
関する基本的な計画」が策定されています。

全国の市町村の状況では、都道府県によってばらつきがありますが、概ね市
は策定率が高く、町村では低い状態になっています。

▶学校司書法制化

平成 28（2016）年 6 月「学校図書館法の一部を改正する法律」
「学校司書の配置」が明記されました。また、「学校司書」は校長の指揮監
督下に置かれることとなりました。

▶障害者差別解消法

平成 28（2016）年 4 月「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法
律」

不当な差別的取扱いの禁止と合理的配慮の提供が規定されました。図書館に
おいても、障害を理由にサービスの提供を拒否することや障害者でない者に対
しては付さない条件、例えば、エレベーターがないことを理由に入館を拒むな
どの条件を付けることが禁止されました。また、利用者からの依頼により、サ
ービスやルールの必要かつ適当な変更及び調整を行うなど、過度な負担ではな
い合理的配慮を提供することにより図書館の利用を保障することが求められ
ています。

▶マラケシュ条約の締結および著作権法の改正

平成 30（2018）年 4 月「盲人、視覚障害者その他の印刷物の判読に障害
のある者が発行された著作物を利用する機会を促進するためのマラケシュ条
約」（マラケシュ条約）の締結について国会で承認されました。

それと同時に、平成 30（2018）年 5 月「著作権法の一部を改正する法律」
（平成 31（2019）年 1 月施行）が制定されました。マラケシュ条約と関連
のある部分の改正が行われ、主な改正点の中に、障害者の情報アクセス機会の
充実に係る権利制限規定の整備（第 37 条関係）があります。障害者の範囲に
いわゆる肢体不自由等の方々を対象として新たに規定され、また、権利制限の

対象とする行為については、コピー（複製）、譲渡やインターネット送信（自動公衆送信）に加え、新たにメール送信等が追加されました。

▶まち・ひと・しごと創生法

平成 26（2014）年 11 月「まち・ひと・しごと創生法」

潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会の形成、地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保、地域における魅力ある多様な就業の機会の創出について一体的に推進することを目的として策定されました。

地域によっては、地域活性化のまちづくりの中心に図書館を据えた基本方針や具体的な施策が実施されています。

(2) 国等の政策・報告等

▶トップランナー方式

平成 27（2015）年 6 月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針 2015」により、歳出効率化に向けた業務改革で他団体のモデルとなるようなものを地方交付税の基準財政需要額の算定に反映させ、民間委託等の取組を加速させるというものです。

図書館業務については平成 29（2017）年度以降導入対象とされていましたが、公民館・博物館・児童館等とともに、教育機関、調査研究機関としての重要性に鑑み、司書、学芸員等を地方団体の職員として配置していることなどから見送りとなりました。

▶文部科学省組織再編

現行の「生涯学習政策局（6 課 1 参事官）」を再編し、「総合教育政策局（7 課）」を新設するというものです。図書館は「地域学習推進課社会教育施設担当」の管轄となります。また、新たに「社会教育振興総括官」が配置されました。

▶今後の社会教育に期待される役割

平成 29（2017）年 3 月、文部科学省生涯学習政策局において「学びを通じた地域づくりの推進に関する調査研究協力者会議」が行われ、「人々の暮らしと社会の発展に貢献する持続可能な社会教育システムの構築に向けて一論点の整理」が公表されました。

その会議によれば、今後の社会教育に期待される役割として、①地域コミュニティの維持・活性化への貢献②社会的包摂への寄与③社会の変化に対応した

学習機会の提供があげられています。学びの成果を地域づくりの実践につなげる「地域課題解決学習」を社会教育の概念として明確に位置付け、その推進を図ることにより、住民の主体的参画による持続可能な地域づくりに貢献することが求められています。また、教育委員会と首長部局の連携はもとより、企業等の多様な主体との連携を促進し、官民パートナーシップによる社会教育の推進を図っていくことも求められています。

▶ 図書館の所管問題

平成 30（2018）年、中央教育審議会生涯学習分科会「公立社会教育施設の所管の在り方等に関するワーキンググループ」において議論されました。現在は各自治体の教育委員会が所管している博物館・図書館行政を、首長部局が担うことについて検討し、その結果が生涯学習分科会に報告されました。報告内容としては、今後も教育委員会が所管することを基本とすべきとしていますが、政治的中立性の確保に関する制度的担保が行われることを条件に、当該地方の実情等を踏まえ、自治体の長が所管することが当該地方にとってより効果的と判断される場合には、各自治体の判断により自治体の長が所管することができる特例を設けることを可能とする、というものです。

▶ 図書館におけるデジタルアーカイブの整備

国全体でデジタルアーカイブを推進していく方向性が示されています。（デジタルアーカイブの連携に関する関係省庁等連絡会・実務者協議会：事務局内閣府）

図書館での取組としては、

- ・メタデータ（書誌データ）の共有（オープン化）
- ・デジタルコンテンツの作成・収集
- ・デジタルコンテンツ（デジタル化資料等）の二次利用条件表示

が求められています。また、博物館、美術館、文書館等と連携して、地域の特色あるアーカイブを構築する役割も期待されています。

▶ 公共施設等総合管理計画

全国の自治体で公共施設の老朽化対策が大きな課題となっていることから、平成 26（2014）年 4 月に総務省から各自治体に公共施設等総合管理計画の策定が要請されました。今後、人口減少等により利用需給が変化していくことが予想されることを踏まえ、施設の状況を把握し、長期的な視点をもって、更新・統廃合などを計画的に行い、施設の最適な配置を進めることが求められています。

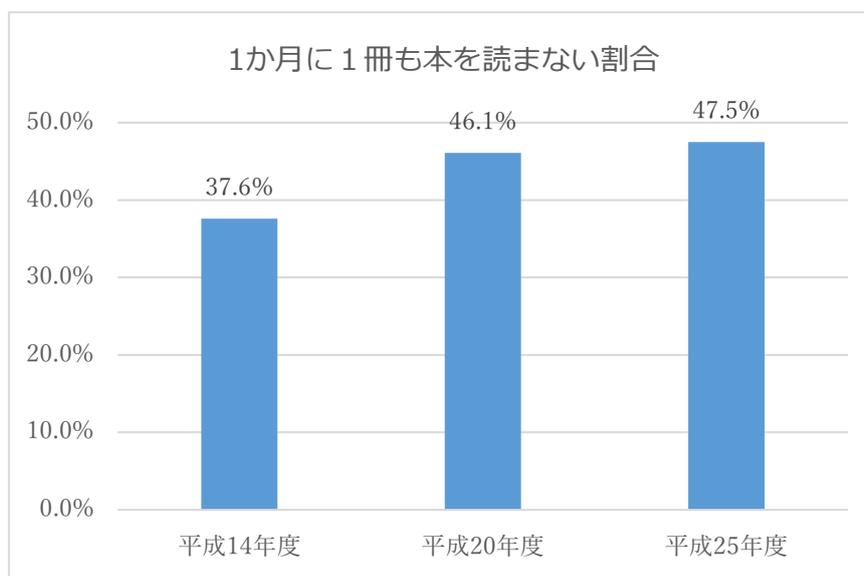
(3) 読書傾向

▶ 不読率の増加

○文化庁「国語に関する世論調査」

(平成 25 (2013) 年度調査・全国 16 歳以上の男女計 3,473 人対象)

- ・ 1か月に本を1冊も「読まない」割合は、47.5%となっています。
平成 14 (2002) 年度調査と比較すると、10 ポイント増加しています。



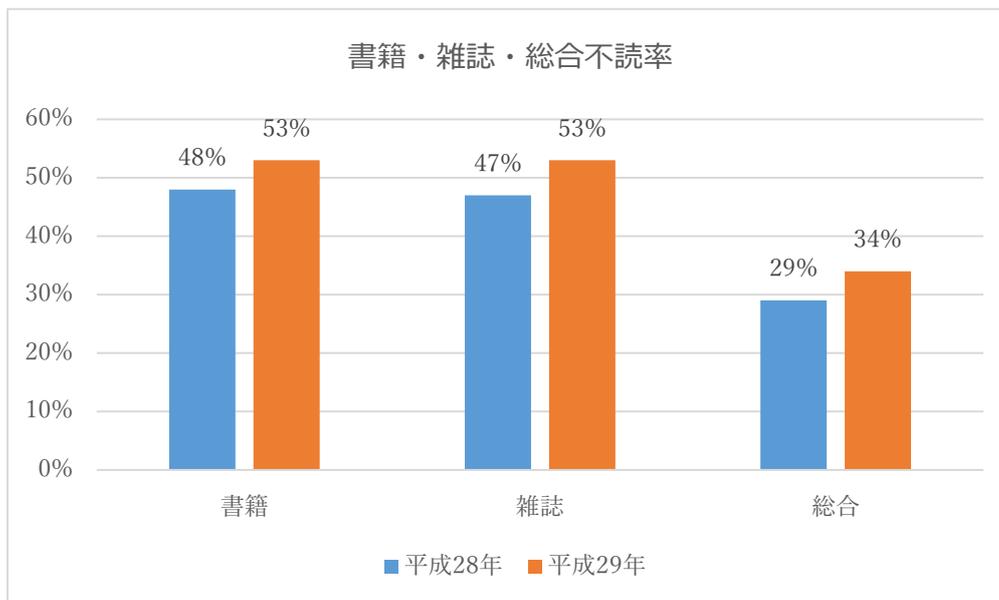
- ・「読書量が以前と比べて減っているか、増えているか」の設問では、「読書量が減っている」割合が最も高く、65.1%となっています。

	平成20年度	平成25年度
読書量は減っている	64.6%	65.1%
読書量はそれほど変わっていない	25.3%	26.3%
読書量は増えている	8.6%	7.4%

その理由として、「情報機器（携帯電話、スマートフォン、タブレット端末、パソコン、ゲーム機等）で時間が取られる」割合が、26.3%であり、平成 20 (2008) 年度調査と比較して 12 ポイント増加しています。

○毎日新聞社「読書世論調査」から
(全国 300 地点の満 16 歳以上の男女計 3,600 人に調査)

- 「書籍を読まない」割合は 53%、「雑誌を読まない」割合は 53%、「両方読まない」割合は 34%となっています。前年比では、書籍を読まない割合は 5ポイント増、雑誌を読まない割合は 6ポイント増、両方読まない割合は 5ポイント増となっています。



二つの調査は、調査方法や調査年が異なるため、単純に比較できませんが、どちらの調査からも「不読率」の増加がうかがえます。

3. 所沢市の変化

(1) 社会状況の変化

ア 人口推移と人口構造予測

本市の人口は、平成 23（2011）年以降、34 万 3 千人を超え、その後は横ばい傾向にあります。今後は減少することが見込まれており、平成 36（2024）年には 34 万人を割り込むものと推計されています。また、年齢構成別の将来人口推計では、0～14 歳の年少人口や 15～64 歳の生産年齢人口の割合は、次第に低下する傾向にある一方、高齢者人口（65 歳以上）は増加傾向にあり、平成 37（2025）年には高齢化率が 28%を超えると予測されています。

イ 流出入人口

平成 27（2015）年の国勢調査によると、1 日の流出入人口では、市民の約 29%が通勤・通学で市外に出ている一方、昼間人口の約 21%は、市外から通勤・通学で流入しています。平成 17（2005）年の調査時に比べ、昼間人口が 2 ポイント上昇していますが、昼間人口比率は 86.1%となっており、近隣市町村と比較して低い水準になっています。

ウ 地域別の変化

市内の地域区分は、旧町村をベースに 11 地区に分かれています。所沢地区や小手指地区はマンション等の住宅整備が進み、今後も将来人口の増加傾向が続き、新所沢地区は、横ばい傾向となることが予測されます。その他の地区では減少すると予測されます。また、全地区で高齢化が進行すると見込まれており、その中で、並木地区は特に急増し、所沢地区は他の地区と比べ進行が遅いと推計されています。

(2) 市の計画や動向

ア 所沢市障害のある人もない人も共に生きる社会づくり条例

障害者差別解消法の理念に基づいて、障害のある人への社会的障壁を取り除くことにより、障害のある人もない人も共に支え合い、認め合い、人々との絆を感じながら、笑顔でいきいきと地域で自立して生活できる「共生社会」の実現を目指して、平成 30（2018）年 7 月に施行しました。

イ 第7期所沢市高齢者福祉計画・介護保険事業計画

「人と人との絆により支えあい、自立した生活を送るために」を基本理念に掲げ、高齢者一人ひとりがその身体機能や生活環境に応じ自立した生活を送ることができるように、平成30（2018）年4月に策定しました。

ウ 所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略

少子高齢化の流れの中で、自治体が生産年齢人口の確保を図ることは大きな課題です。「しごと」と「ひと」の好循環、それを支えるまちの活性化につながる本市独自の施策を展開し、個性を明確にすることで、人口の急激な減少の抑制と地方創生に取り組むことを目的として、平成28（2016）年3月に策定しました。

エ 所沢市マチごとエコタウン推進計画(第3期所沢市環境基本計画)(案)

「マチごとエコタウン所沢構想」（平成26（2014）年策定）の趣旨・理念等を引き継ぎ、かつ、環境基本計画を統合した、環境保全の基本的・総合的な計画で、平成31（2019）年度より施行されます。“人と人”“人と自然”との絆を大切にし、みどり豊かで心豊かなマチを未来の子どもたちに引き継いでいくための取組を進めるものとしています。

オ 所沢市公共施設等総合管理計画

平成28（2016）年4月に策定しました。

様々な社会状況を考慮しながら、公共施設等の現状と課題などを把握するとともに、総合的かつ計画的な管理に関する基本的な方針です。今後、市民ニーズの変化を踏まえながら、保持可能な施設の総量や水準を見極め、施設の集約化や複合化、廃止等について検討がなされます。

(3)教育・文化的環境の変化

昭和30～40年代に新所沢地区や小手指地区が宅地開発されたことを契機に、高度経済成長期に人口が急増し、学校の建設がピークとなり、現在、市立小中学校は47校あります。

また、公共施設は、市内各地域にあるまちづくりセンター（公民館）の外、市民文化センターミュージズ、市民体育館、地区体育館、生涯学習推進センターなどがあります。学校や公共施設には、昭和50年代に建設された施設が多く、今後ますます老朽化が課題となっていきます。

このような中、『COOL JAPAN FOREST 構想』の中心となる東部地域での「新たな文化」の拠点整備や、所沢駅周辺の再開発事業などを通して、所沢市の地域産業や商業、文化などが新たに生まれ変わろうとしています。

(4) 財政状況の推移

▶ 所沢市普通会計決算総括表より

(単位：千円)

		平成24年度	平成29年度
歳入	総額	90,547,183	102,389,785
歳出	人件費	20,504,256	16,242,385
	物件費	13,614,443	15,171,840
	維持補修費	1,436,096	1,028,765
	扶助費	24,363,307	28,718,621
	補助費等	3,666,169	9,912,570
	普通建設事業費	6,607,179	6,730,856
	災害復旧費	0	33,091
	公債費	7,325,942	6,868,376
	積立金	1,169,366	2,214,493
	繰出金	8,885,035	10,843,530
		合計	87,571,793

▶ 市費に占める教育費の割合（決算）

年度	項目	額（千円）	割合（%）
24	教育費	8,991,177	10.3%
	市費	87,571,793	
29	教育費	8,831,614	9.0%
	市費	97,764,527	

所沢図書館の現状

1. 貸出数・貸出利用者数・登録者数

平成 25（2013）年度と比較すると、貸出数は約 6.7%、貸出利用者は約 7.7%、登録者数は約 5.2%、それぞれ減少しています。

施設の改修工事等による長期休館（本館ほか3館）や、貸出数の多かったコンビニエンスストア2店舗が閉店等によりサービス終了となったことなどが影響していると考えられます。

貸出数

年度	H25	H26	H27	H28	H29
貸出数	1,720,640	1,732,637	1,725,659	1,676,823	1,604,514

貸出利用者数

年度	H25	H26	H27	H28	H29
利用者数	589,837	600,199	593,789	575,524	544,125

実利用者数

年度	H25	H26	H27	H28	H29
利用者数	49,799	49,009	47,855	47,035	44,916

登録者数

年度	H25	H26	H27	H28	H29
登録者数	118,456	117,071	116,021	113,988	112,345
所沢市民	112,294	110,836	109,811	107,905	106,368

2. 予約受付数

予約受付数は、平成 27(2015)年度をピークに減少し始めていますが、インターネットの普及に伴い、図書館ホームページからの予約数の割合は徐々に増えています。

予約受付数

年度	H25	H26	H27	H28	H29
受付数	382,450	397,979	414,904	397,706	377,944
内インターネット	277,990	291,213	303,600	291,406	279,930
インターネットの割合	72.7%	73.2%	73.2%	73.3%	74.1%

3. 所蔵数

所蔵数は毎年増加し、平成 28(2017)年度には 100 万冊・点を超えました。図書等購入費の継続的かつ安定的な予算措置による蔵書構築が行われた結果と考えられます。

所蔵数

年度	H25	H26	H27	H28	H29
一般書	597,896	622,265	632,012	642,616	652,882
児童書	289,442	294,984	299,345	304,454	308,656
紙芝居	5,049	5,151	5,187	5,354	5,484
図書計	892,387	922,400	936,544	952,424	967,022
雑誌	37,570	38,546	38,165	38,965	39,875
視聴覚	13,995	14,695	15,295	22,940	23,430
合計	943,952	975,641	990,004	1,014,329	1,030,327

図書購入費の推移

年度	H25	H26	H27	H28	H29
図書購入費（千円）	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000
備品図書購入費（千円）	330	330	330	330	330
図書費：計（千円）	55,330	55,330	55,330	55,330	55,330
所沢市人口（人）	342,564	343,067	343,321	343,986	343,993
市民一人当たりの購入費（円）	161.5	161.3	161.2	160.8	160.8

4. 平成29年度主要統計の市民年齢別割合

市民を対象とした主要統計を年齢別にみると、61歳以上の割合が、貸出数は39.2%、のべ貸出利用者数は44.1%となっています。累積登録者は24.7%となっていることから、リピーターの利用が多いことが分かります。

平成25年度と比較すると、61歳以上の方の貸出数は4.8ポイント上昇し、のべ貸出利用者数は6.9ポイント上昇しています。

平成29年度主要統計市民年齢別割合

年齢	0~6	7~12	13~15	16~18	19~22	23~30	31~40	41~50	51~60	61~	その他
人口	5.5	5.0	2.5	2.7	4.2	8.5	12.5	16.1	12.3	30.8	0.0
貸出数	4.0	8.6	1.4	0.8	1.2	3.1	12.8	17.4	11.1	39.2	0.4
のべ貸出利用者数	2.2	6.2	1.4	0.9	1.4	3.4	10.6	16.6	12.8	44.1	0.4
累積登録者	1.9	7.8	5.3	4.5	5.0	9.5	14.6	16.7	10.0	24.7	0.0

平成25年度主要統計市民年齢別割合

年齢	0~6	7~12	13~15	16~18	19~22	23~30	31~40	41~50	51~60	61~	その他
人口	5.7	5.1	2.7	2.7	4.1	9.1	14.3	15.3	11.8	29.2	0.0
貸出数	3.6	9.3	1.8	1.0	1.5	4.2	15.1	17.4	11.2	34.4	0.5
のべ貸出利用者数	2.2	7.0	1.9	1.2	1.8	4.6	13.4	17.7	12.5	37.2	0.5
累積登録者	1.7	8.2	5.4	4.8	5.3	10.9	16.0	16.3	9.4	22.0	0.0

5. レファレンス件数

レファレンス受付件数は年度によって増減がありますが、増加傾向にあります。課題解決支援サービスの一環としてのレファレンスサービスが浸透してきていると考えられます。

年度	H25	H26	H27	H28	H29
レファレンス件数	798	1,000	961	1,071	1,217

6. 県内図書館活動調査

埼玉県西部まちづくり協議会の構成市である所沢市・入間市・狭山市・飯能市、また、県内自治体のうち、所沢市以外に人口 30 万人以上の市であるさいたま市・川口市・川越市・越谷市と、県内平均との比較は、以下の通りです。

市町村名	所沢	さいたま	川口	川越	越谷	入間	狭山	飯能	県内平均
奉仕人口（人）	341,091	1,290,029	587,008	353,321	342,486	147,430	150,550	80,092	
蔵書冊数（冊） （視聴覚・雑誌除く）	952,424	3,520,296	1,269,093	799,324	647,044	540,039	649,988	294,078	365,566
市民一人当たりの蔵書冊数（冊）	2.79	2.75	2.18	2.27	1.90	3.66	4.30	3.66	3.16
貸出冊数（冊） （視聴覚・団体貸出除く）	1,582,308	9,422,780	2,879,637	1,670,131	1,822,356	849,571	865,400	411,385	630,343
市民一人当たりの貸出冊数（冊）	4.64	7.36	4.94	4.73	5.34	5.76	5.72	5.12	5.44
図書購入費（千円）	42,923	159,893	85,710	23,076	51,471	16,963	27,316	11,537	17,775
市民一人当たりの図書購入費（円）	126	125	147	65	151	115	181	144	154

資料：『平成 29 年度 埼玉の公立図書館』『平成 28 年度市町村図書館活動調査結果一覧』

※図書購入費は、図書のみ対象／奉仕人口は「埼玉県推計人口」（平成 30 年 4 月 1 日現在）

平成 29 年度市民アンケート調査結果

第2次ビジョンの策定にあたり、第1次ビジョンに基づく図書館運営の進捗状況を確認するため、市民及び市内小学生、中学生、高校生を対象としたアンケート調査を実施しました。

調査結果の詳細は『所沢市立所沢図書館市民アンケート調査集計結果報告書』として、各図書館及び図書館ホームページ等にて公開しました。

※前回調査との比較部分は、平成 23 年度調査との比較です。

1. 市民アンケート調査結果(一般)

対象者	住民基本台帳から年齢別人口比率に基づき 無作為抽出した満18歳以上の市民
対象者数	2,000人
期間	平成29年12月1日～12月31日
調査方法	郵送
有効回収数	696サンプル(回収率34.8%)

【概要】

- ▶ 1か月の読書量については、全体の8割以上の方が少なくとも1冊は本や雑誌を手にしてはいますが、前回調査と比較すると6.2ポイント減少しており、所沢市においても、読書離れが進行していると考えられます。
- ▶ 図書館の利用頻度については、大きな変化は見られず、ほぼ毎日利用する方から月に1回程度と定期的に利用する方を合わせると約3割となり、前回調査の数値を維持しています。
- ▶ 図書館のサービスについては、本や雑誌、CDなどの貸出・返却サービスを「利用している」と答えた方が半数を超え、利用していないが「知っている」と答えた方を含めると、9割近くになります。このことから、市民に最もよく知られている図書館サービスは、貸出・返却サービスであるといえます。
- ▶ 図書館に来館される目的については、館内での読書や調べものによる来館をあわせた数値が、本や雑誌・CDなどの貸出・返却より多いことから、館内

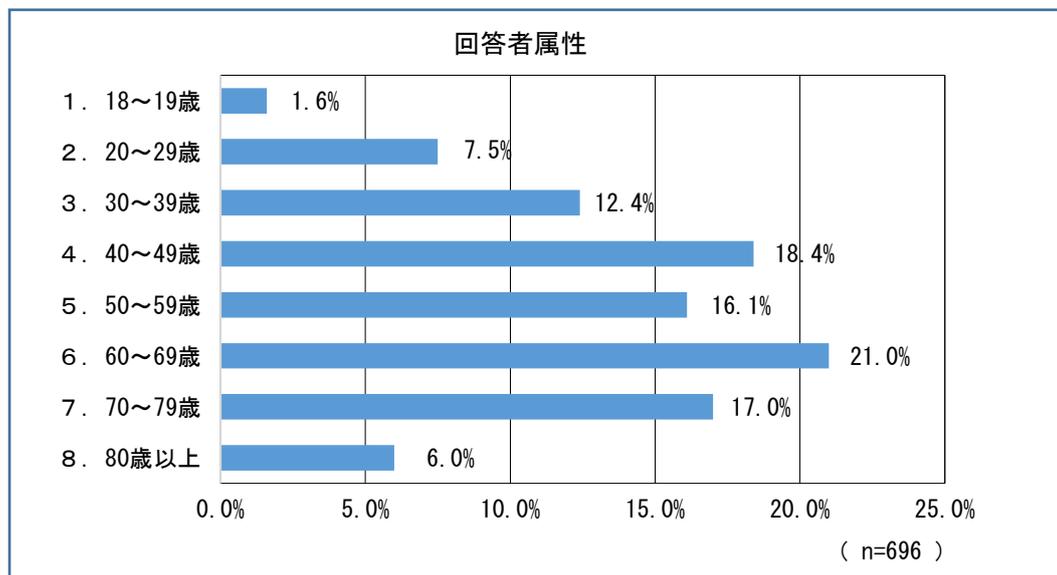
に滞在して利用される方が多いと考えられます。

- ▶優先的に行った方が良いとする項目については、本や雑誌・CD等の充実が最も多く、次いで施設・設備の充実となっています。希望として「くつろいで閲覧できる場所」「集中して調べものができる場所」が60代以上で多く挙がっており、居場所としての図書館を望む声が多いと考えられます。
- ▶図書資料等についての希望としては、新しい本や雑誌の充実を望む声が多い中で、活字の大きな書籍や大人向け紙芝居を増やして欲しいなど、高齢者等に向けたサービスを望む声もありました。

【主な調査結果】

①回答者属性

回答者 696 人のうち、男性が約 4 割女性約 6 割でした。年齢別では 60 歳代が最も多い結果となりました。

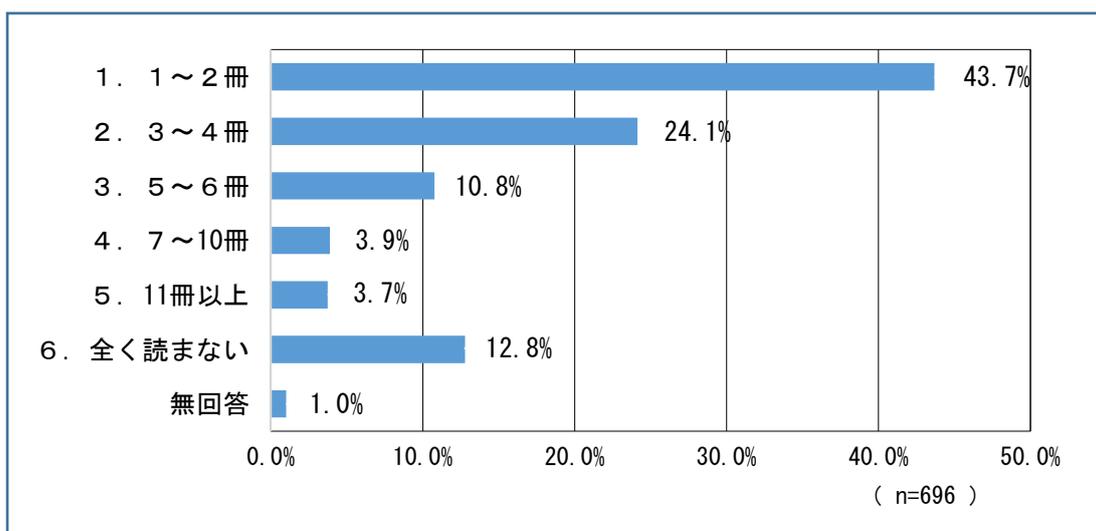


②最近1か月の読書量

設問：あなたは、本や雑誌を1か月に平均何冊くらいお読みになりますか。

「1. 1～2冊」が43.7%で最も多く、次いで「2. 3～4冊」が24.1%、「3. 5～6冊」が10.8%で、全体としては86.2%の人が1か月のうちに少なくとも1冊は本や雑誌を手にしてしています。

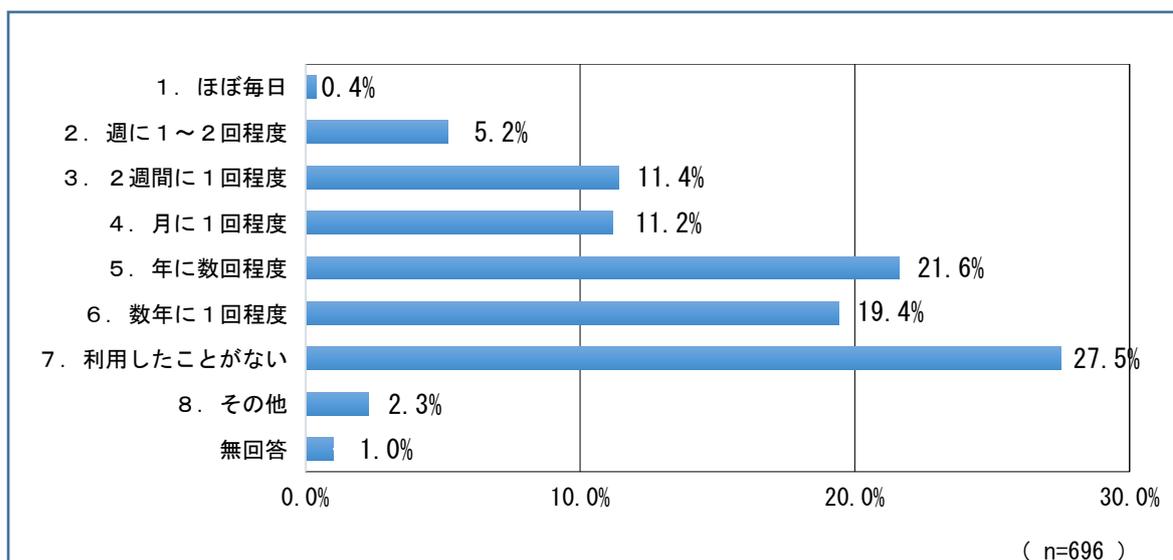
前回調査との比較では、1冊以上本を手にする人が、前回は92.4%でしたので、全体的に本を手にする人が減少しているといえます。



③所沢市立図書館利用頻度

設問：あなたは、所沢市の図書館をどのくらいの頻度で利用しますか。

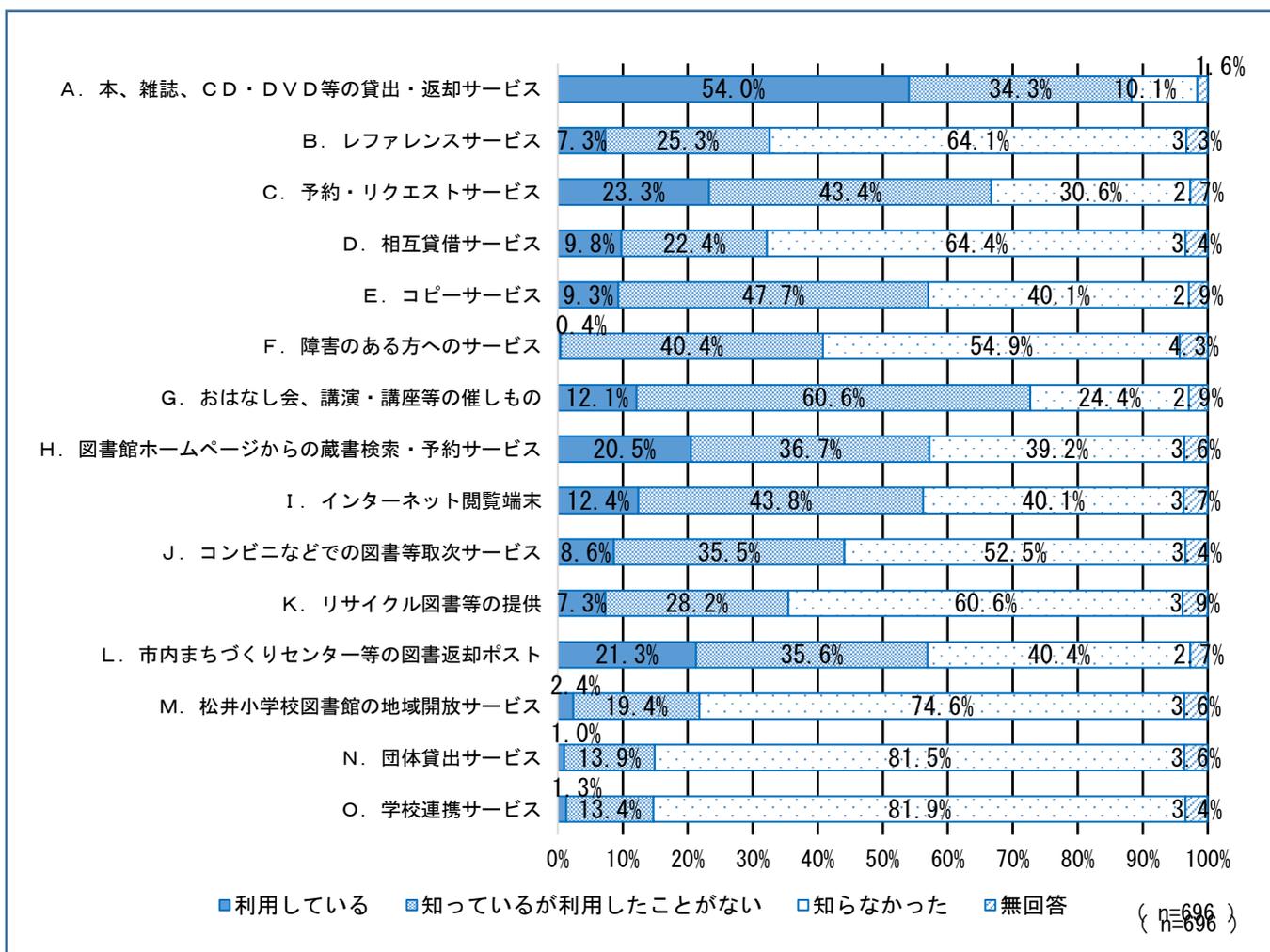
「1. ほぼ毎日」「2. 週に1～2回程度」を選択した利用頻度の高い方は、合わせて5.6%と小数であるが、「3. 2週間に1回程度」「4. 月に1回程度」と定期的に利用する方を合わせると約3割となります。



④サービス認知度

設問：所沢市の図書館では、A～Oのサービスを行っていますが、あなたがご存知のサービスはありますか。

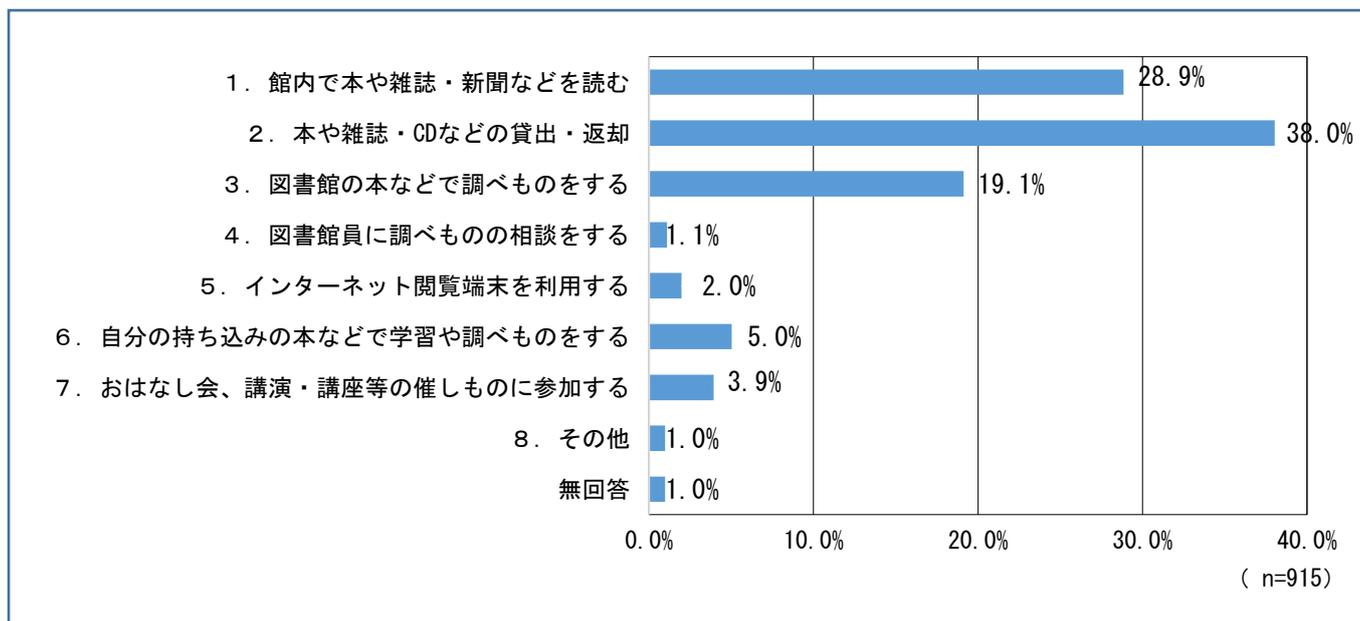
「A.本、雑誌、CD・DVD等の貸出・返却サービス」は、「利用している」が54.0%と半数を超えており、「知っているが利用したことはない」と合わせると88.3%で、高い認知度を示しています。「N. 団体貸出サービス」、「O. 学校連携サービス」などはあまり知られていません。



⑤利用内容

設問：あなたは、図書館を主にどのように利用されていますか。

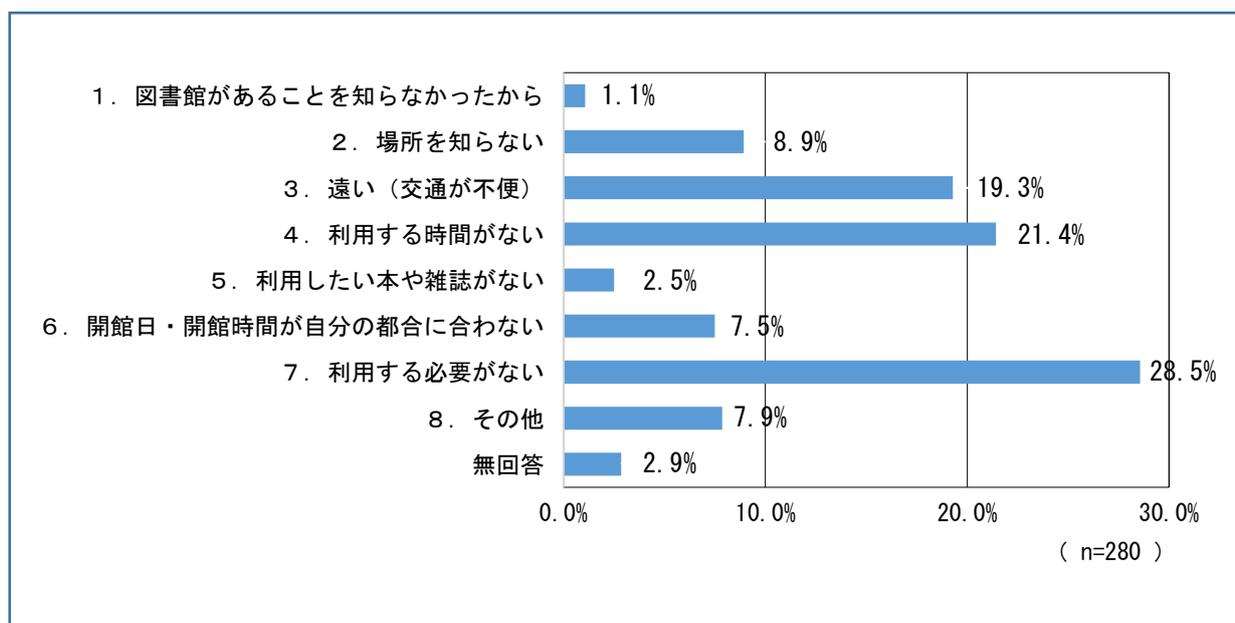
「2. 本や雑誌・CDなどの貸出・返却」が最も多く38.0%、「1. 館内で本や雑誌・新聞などを読む」が28.9%、次いで「3. 図書館の本などで調べものをする」が19.1%となっています。「4. 図書館員に調べものの相談をする」は1.1%で、「8. その他」を除き最も少なくなっています。



⑥図書館を利用しない理由

設問：図書館を利用されないのは、なぜですか。

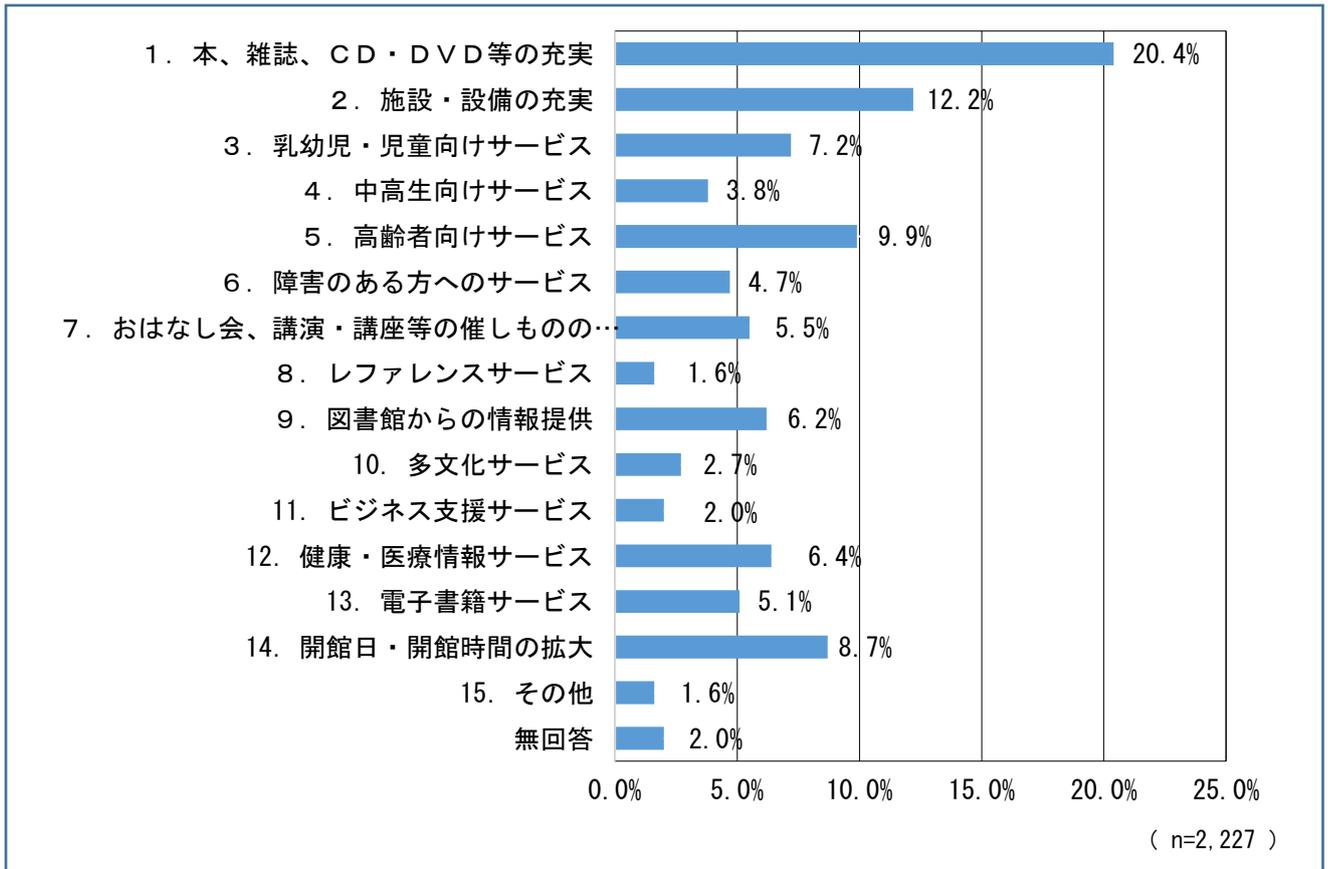
「7. 利用する必要がない」が28.5%、「4. 利用する時間がない」21.4%、「3. 遠い（交通が不便）」が19.3%となっています。



⑦図書館に優先的に望むサービス

設問：あなたが、これから図書館で優先的に行った方が良いと思うサービスについてお聞きします。

「1. 本、雑誌、CD・DVD等の充実」が20.4%と最も多く、次いで「2. 施設・設備の充実」12.2%と続きます。



2. 市民アンケート調査(小学生)

対象者	所沢市内の市立小学校(32校) 各校5年生1クラス
対象者数	1,028人
期間	平成30年1月12日~1月31日
調査方法	学校を通じて配布
有効回収数	963サンプル(回収率93.7%)

【概要】

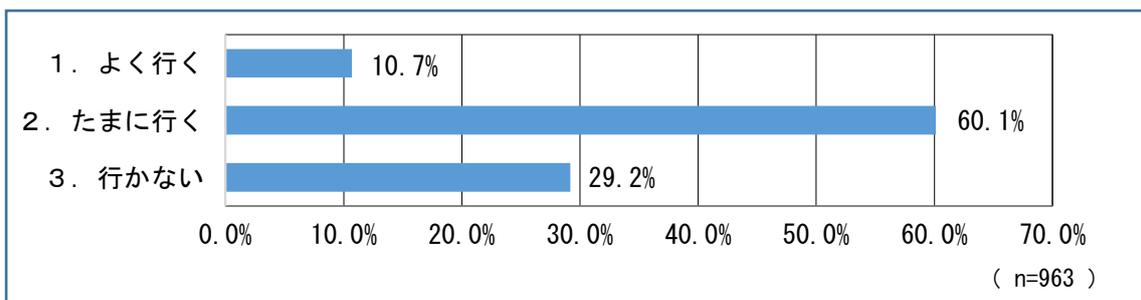
- ▶ 前回調査と比較し、市立図書館に「よく行く」または「たまに行く」と回答した児童が増え7割となり、「行かない」という回答は減少しています。
- ▶ 「誰と図書館に行くか」という質問に対し、友だち・一人とする回答が減少して家族が増加しました。これは、社会情勢を反映していると推察しています。
- ▶ 来館目的については貸出・返却などのサービスがやや減少している一方、「気ばらしや時間つぶし」「学校の勉強をする」といった居場所の確保についての項目がやや増加しています。
- ▶ 図書館サービスについては、本や紙芝居などの貸出サービスを「知らなかった」とする回答は減少していますが、CDやDVDなどの利用については、あまり知られていない結果となりました。小学生の利用は、直接来館し、書架から借りる方法が多く、視聴覚資料の場合、所沢分館以外の館では予約による取り寄せになることが要因と思われます。
- ▶ 図書館を利用しない理由としては、「本をよみたくない」や「本のかり方がわからない」が減少していますが、「図書館がどこにあるのかしらない」が増加する結果となっています。読書活動推進の効果が見られる一方で、市立図書館の利用促進については更に努力が必要と思われます。

【主な調査結果】

①所沢市立図書館利用頻度

設問：あなたは、所沢市の図書館に、行ったことがありますか。

「1. よく行く」が10.7%、「2. たまに行く」が60.1%。合わせて70.8%が市立図書館を利用しています。

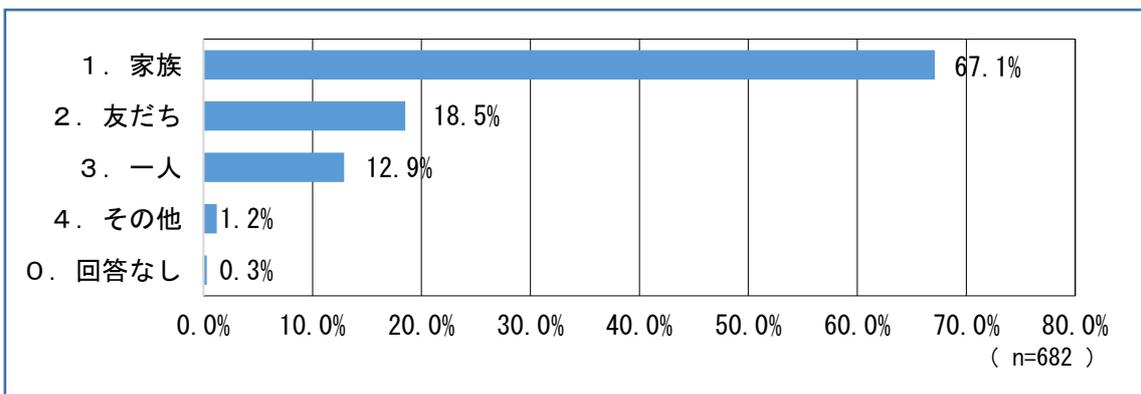


②誰と図書館に行くか

設問：図書館には、だれといっしょに行きますか。

「1. 家族」が67.1%と最も多く、「2. 友だち」は18.5%、「3. 一人」は12.9%でした。

前回調査との比較では、「2. 友だち」3ポイント減、「3. 一人」2ポイント減となっています。一方、「1. 家族」は、実質3.4ポイント増となっており、社会情勢を反映していると思われます。



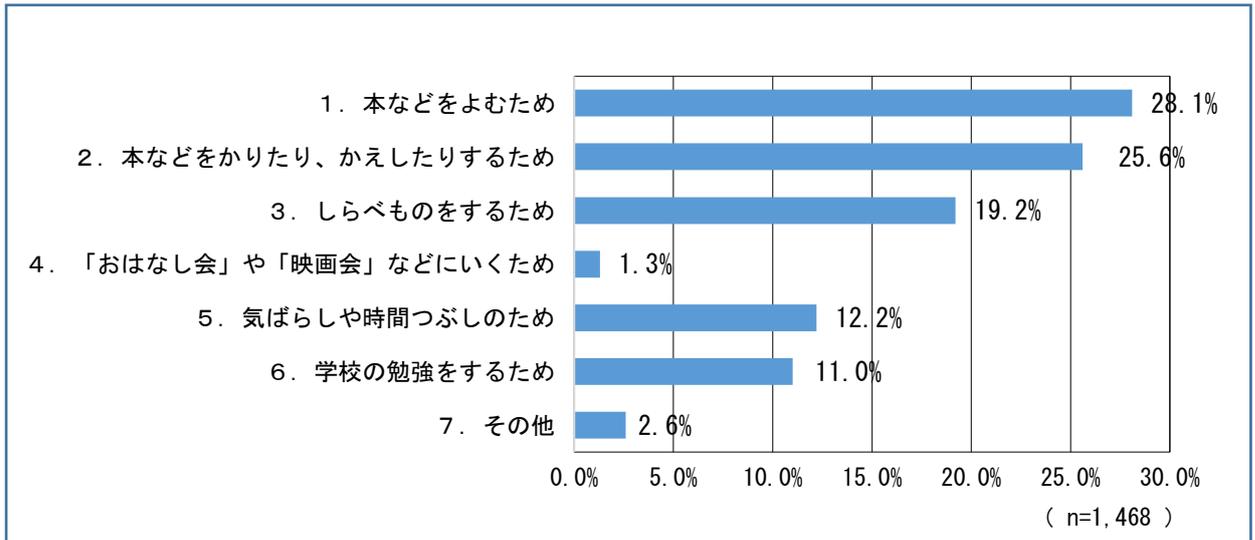
③図書館利用内容

設問：図書館に行くのは、何のためですか。

「1. 本などをよむため」が28.1%と最も多く、次いで「2. 本などをかりたり、かえしたりするため」が25.6%となっています。

前回調査との比較では、「2. 本などをかりたり、かえしたりするため」などの図書館の主なサービスについてはやや減少している一方、「5. 気ばらしや時間つぶしのため」2.1ポイント増、「6. 学校の勉強をするため」3.1ポ

イント増と、居場所の確保についての項目がやや増加しています。



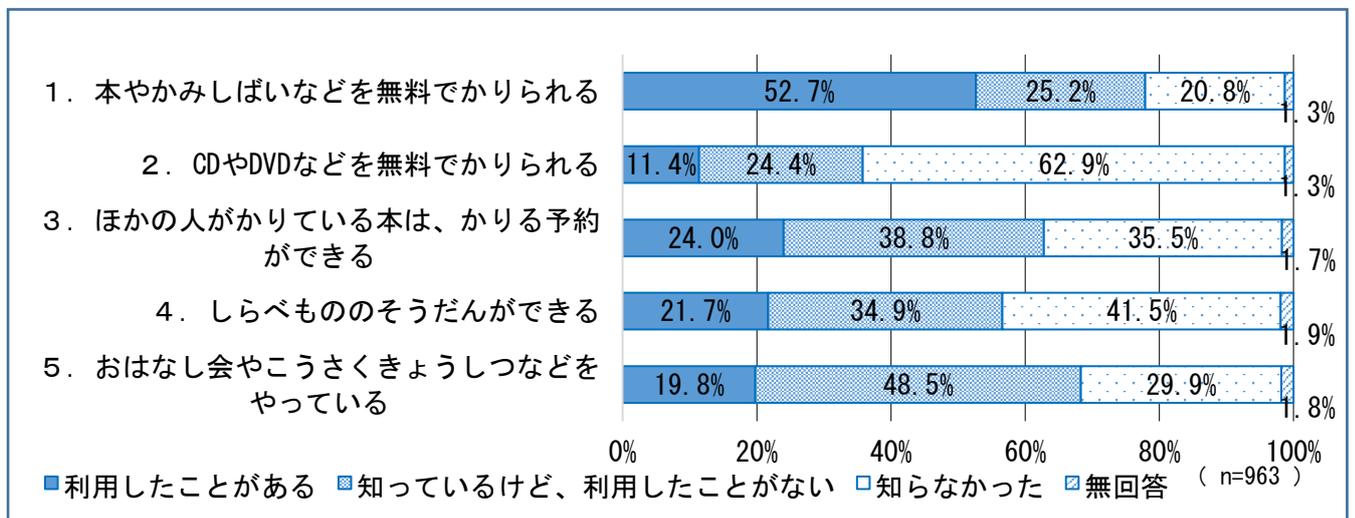
④図書館サービスの認知度

設問：図書館で次のことをやっているのを知っていますか。また、利用したことがありますか。

「1. 本やかみしばいなどを無料でかりられる」については、「利用したことがある」が52.7%となっています。一方「知らなかった」と回答しているのは、「2. CDやDVDなどを無料でかりられる」が62.9%、「4. しらべもののそうだんができる」が41.5%、となっています。

前回の調査との比較では、「1. 本やかみしばいなどを無料でかりられる」は、「利用したことがある」が8.6ポイント増加しており、「知らなかった」が7.7ポイント減少しています。

直接来館し、書架から借りる方法が多く取られており、視聴覚資料は所沢分館以外では取り寄せによる利用となるため、利用について知られていないのは、予約サービスの認知度の低さの影響もあると思われます。

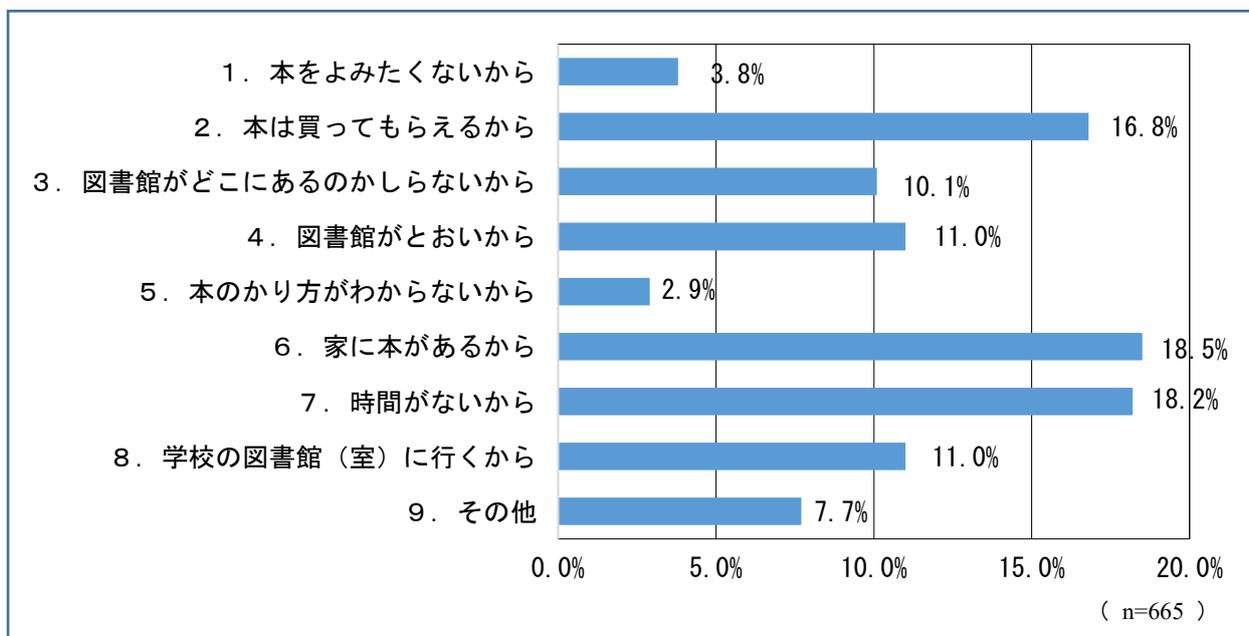


⑤図書館を利用しない理由

設問：図書館に行かないのはなぜですか。

「6. 家に本があるから」が18.5%と最も多く、次いで「7. 時間がないから」が18.2%、「2. 本は買ってもらえるから」が16.8%と続き、「4. 図書館がとおいから」と「8. 学校の図書館(室)に行くから」が同率で11.0%と、「3. 図書館がどこにあるのかわからないから」は、10.1%となっています。

前回調査との比較では、「1. 本をよみたくないから」1.9ポイント減、「5. 本のかり方がわからないから」1.9ポイント減となっていますが、「3. 図書館がどこにあるのかわからないから」が2.3%増加しています。読書活動推進の効果が見られる一方で、公立図書館の利用促進については更に努力が必要と思われます。



3. 市民アンケート調査(中学生)

対象者	所沢市内の市立中学校(15校) 各校2年生1クラス
対象者数	529人
期間	平成30年1月12日~1月31日
調査方法	学校を通じて配布
有効回収数	472サンプル(回収率89.2%)

【概要】

- ▶ 市立図書館の利用についての前回調査との比較では、利用している生徒が約7割に増加し、利用したことが無い生徒は減少しています。
- ▶ 「誰と図書館に行くか」という設問には、「友だち」が最も多く、次に「一人」、「家族」の順となっています。前回調査との比較では「一人」が最も増加し、次いで「友だち」も増加する一方で、「家族」が大きく減少しています。
- ▶ 利用する内容は、「勉強をするため」が最も多く、次いで「本などを読むため」となっています。また「気分転換や時間つぶしのため」も増加しており、基本のサービスに加えて、居場所としての図書館が求められていると考えられます。
- ▶ 図書館サービスとしては、本や雑誌などの貸出サービスを利用したことがあるとする回答が大きく増加しており、一方で「CDやDVDなどを無料でかりられる」「調べものの相談ができる」は、あまり知られていないという結果となっています。
- ▶ 市立図書館を利用しない理由として、「時間がないから」が最も多い結果となりましたが、「本は買ってもらえる」「家に本がある」、「学校の図書館(室)に行く」なども増加しており、本が身近にある環境の生徒が増えていると考えられます。
- ▶ 「図書館の場所を知らない」「本のかり方がわからない」は減少しており、読書活動推進の取り組みの成果が表れていると考えられます。

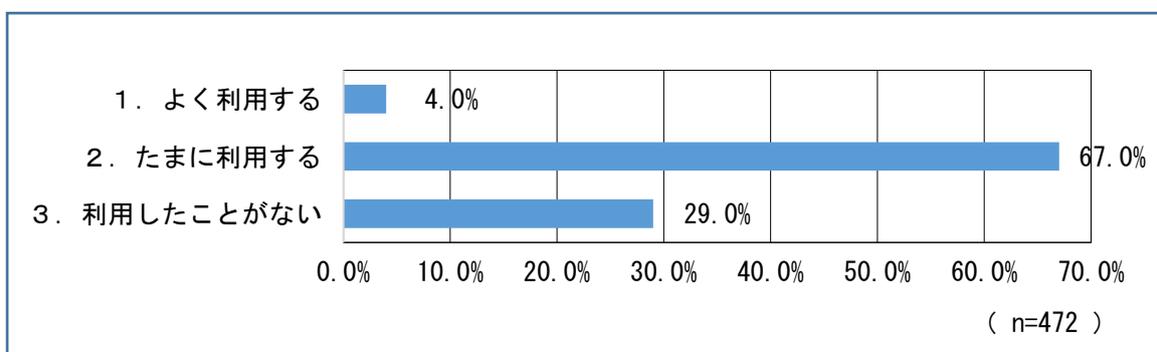
【主な調査結果】

①所沢市立図書館利用頻度

設問：あなたは、所沢市の図書館を利用したことがありますか。

「1. よく利用する」が4.0%、「2. たまに利用する」が67.0%、合わせて71.0%が市立図書館を利用しています。「3. 利用したことがない」は29.0%となりました。

前回調査との比較では、「1. よく利用する」が0.5ポイント増、「2. たまに利用する」が2.8ポイント増と、市立図書館を利用している生徒が増加し、「3. 利用したことが無い」は3.3ポイント減少しました。

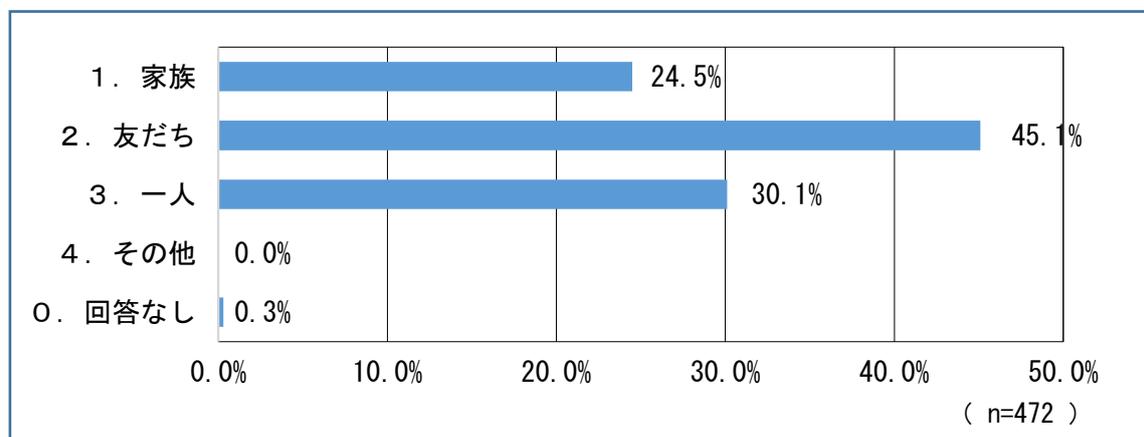


②誰と図書館に行くか

設問：図書館には、誰と一緒にいきますか。

「2. 友だち」が45.1%で最も多く、次に「3. 一人」が30.1%、「1. 家族」24.5%の順となっています。

前回調査との比較では、「3. 一人」が最も増加して5.6ポイント増、次いで「2. 友だち」が4.9ポイント増加している。一方「1. 家族」は8.1ポイント減と大きく減少しています。

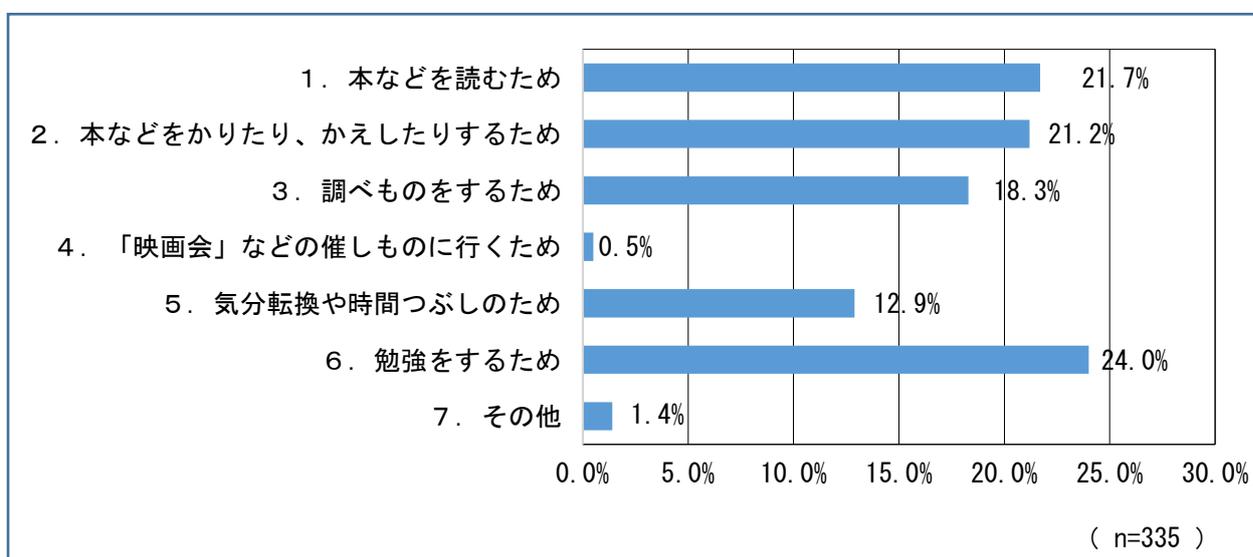


③図書館利用内容

設問：図書館を利用するのは、何のためですか。

「6. 勉強をするため」が24.0%と最も多く、次いで「1. 本などを読むため」が21.7%、続いて「2. 本などをかりたり、かえしたりするため」21.2%となっています。

前回調査との比較では、「6. 勉強をするため」が9.5ポイント増と大きく増加しており、「5. 気分転換や時間つぶしのため」が2.7ポイント増となっています。一方で、「1. 本などを読むため」「2. 本などをかりたりかえしたりするため」「3. 調べものをするため」といった図書館の基本的なサービスについてはやや減少しています。基本サービスに加えて、居場所としての図書館が求められていると考えられます。



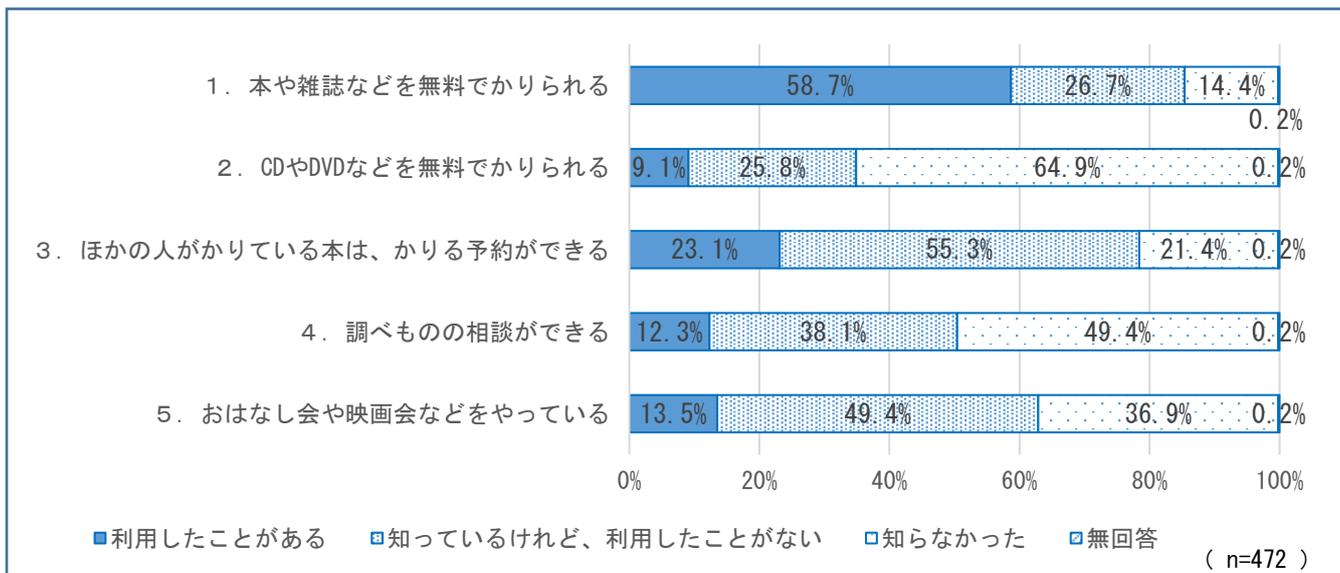
④図書館サービスの認知度

設問：図書館が行っているサービスについて、あてはまる番号に○をつけてください。

「1. 本や雑誌などを無料でかりられる」については、58.7%が「利用したことがある」と答えています。

一方、知らなかったと回答しているものは、「2. CD や DVD などを無料でかりられる」が64.9%、「4. 調べものの相談ができる」が49.4%となっています。

前回調査との比較では、「1. 本や雑誌などを無料でかりられる」については、「利用したことがある」が7.4ポイント増、「2. CD や DVD などを無料でかりられる」は、「知らない」が2.5ポイント増でした。



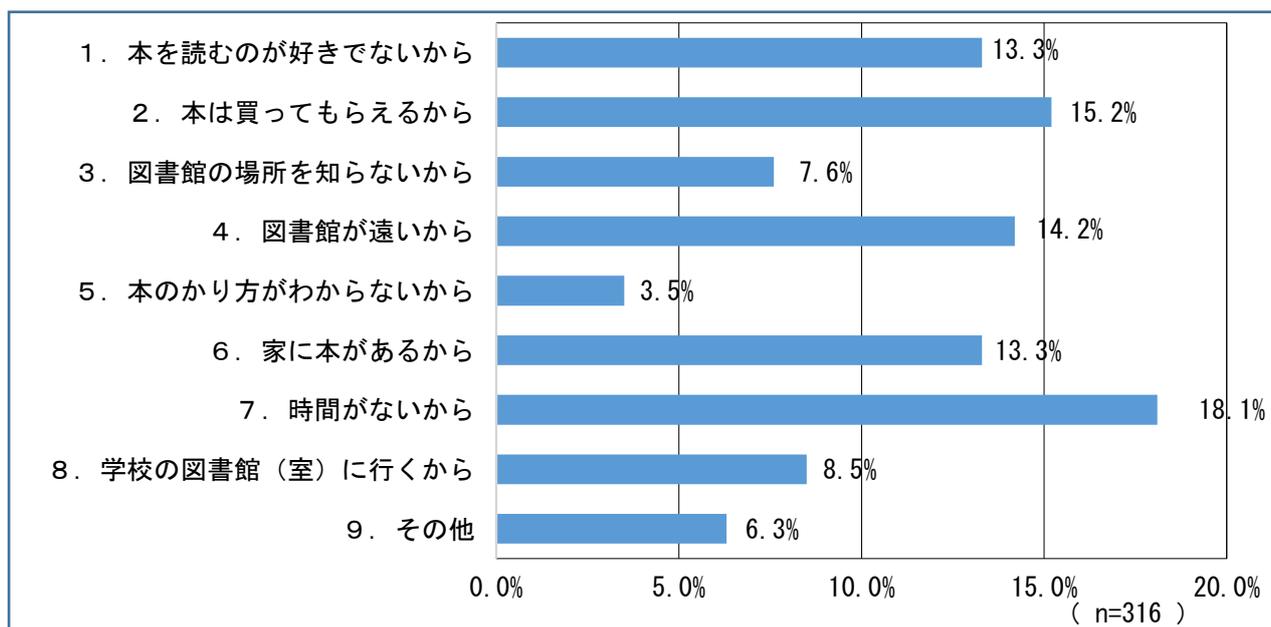
⑤図書館を利用しない理由

設問：図書館を利用しないのはなぜですか。

「7. 時間がないから」が18.1%と最も多く、次いで「2. 本は買ってもらえるから」15.2%、「4. 図書館が遠いから」14.2%の順となっています。

前回調査との比較では、「1. 本を読むのが好きではないから」が1.5ポイント増加していますが、「2. 本は買ってもらえるから」「6. 家に本があるから」「8. 学校の図書館(室)に行くから」も増加しており、本が身近にある環境の生徒が増えていると考えられます。また、「9. その他」の中に、「自分で買う」とする回答も6件ありました。

一方、「3. 図書館の場所を知らないから」「5. 本のかり方がわからないから」は減少しており、読書活動推進の取り組みの成果が表れていると考えられます。



4. 市民アンケート調査(高校生)

対象者	所沢市内県立高等学校(6校) 各校2年生1クラス
対象者数	240人
期間	平成30年1月19日~2月2日
調査方法	学校を通じて配布
有効回収数	212サンプル(回収率88.3%)

【概要】

- ▶最近1か月の読書量では「全く読まない」と答えた生徒が最も多く、前回から大きく増加しています。また、1か月のうちに本や雑誌を手にとっている生徒も大きく減少しており、この年代の読書離れが著しく進んでいるといえます。
- ▶所沢市の図書館を「利用したことがない」とする生徒が7割以上ですが、利用している生徒では、「館内で本や雑誌・新聞などを読む」、「図書館の本などで調べものをする」「自分の持ち込みの本などで学習や調べものをする」が多く、図書館を居場所として利用していることがわかります。
- ▶「本、雑誌、CD・DVD等の貸出・返却サービス」については、よく知られていますが、レファレンスサービスやコンビニでの図書等取次サービスなど、その他のサービスについては、半数以上が「知らなかった」を選択しており、前回からの変化はあまり見られませんでした。
- ▶所沢市の図書館を利用しない理由としては、「場所を知らない」が最も多く、「自分が住んでいる地域の図書館を利用している」、「利用する必要がない」が続いています。
- ▶図書館に優先的に望むサービスとしては、「本、雑誌、CD・DVD等の充実」が大きく増加し、最も多く選択されています。次いで「中高生向けサービス」、「施設・設備の充実」となっています。

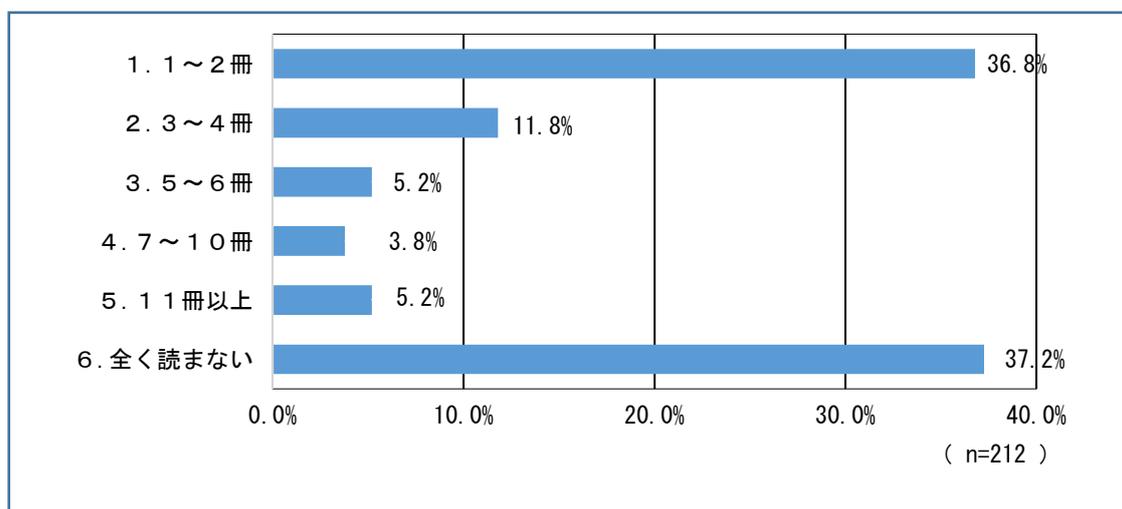
【主な調査結果】

①最近1か月の読書量

設問：あなたは、本や雑誌を1か月に平均何冊くらいお読みになりますか。

「6. 全く読まない」と答えた生徒が最も多く37.2%、次いで「1. 1～2冊」が36.8%となっています。「5. 11冊以上」は5.2%となっており、全体の62.8%の生徒は、1か月のうちに本や雑誌を手にとっていることになります。

前回調査との比較では、「6. 全く読まない」と答えた生徒が、21.1ポイント増加していました。また、1か月のうちに本や雑誌を手にとっている生徒は、20.6%減少していました。この年代の読書離れが、著しく進んでいると言えます。

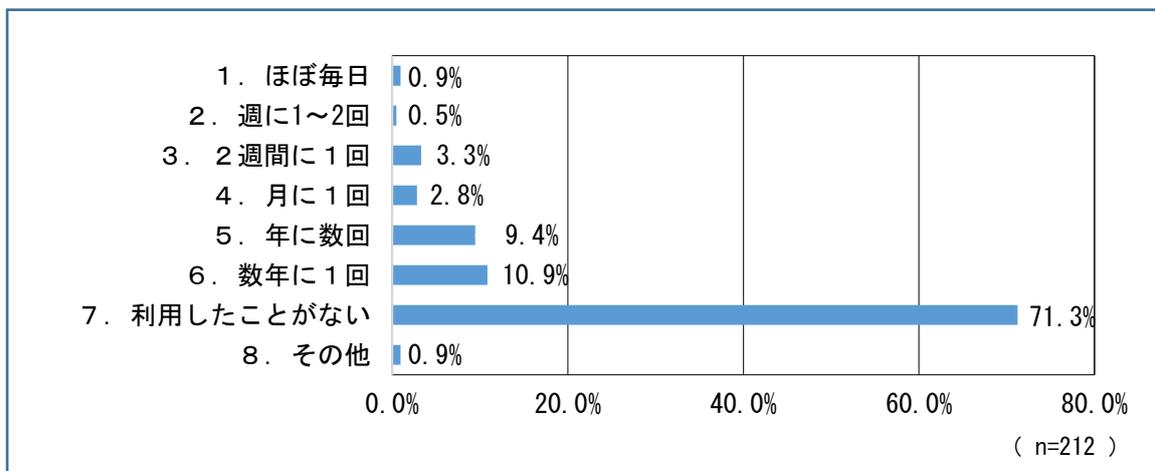


②所沢市立図書館利用頻度

設問：あなたは、所沢市の図書館をどのくらいの頻度で利用しますか。

所沢市の図書館を「7. 利用したことがない」とする回答が71.3%であり、「6. 数年に1回」の10.9%と合わせ、ほとんど利用していない生徒が、全体の約82.2%でした。

なお、全員が市内在学者のため利用対象ですが、市内在住者は、回答数の約36.8%です。なお、前回からの変化は、あまり見られませんでした。

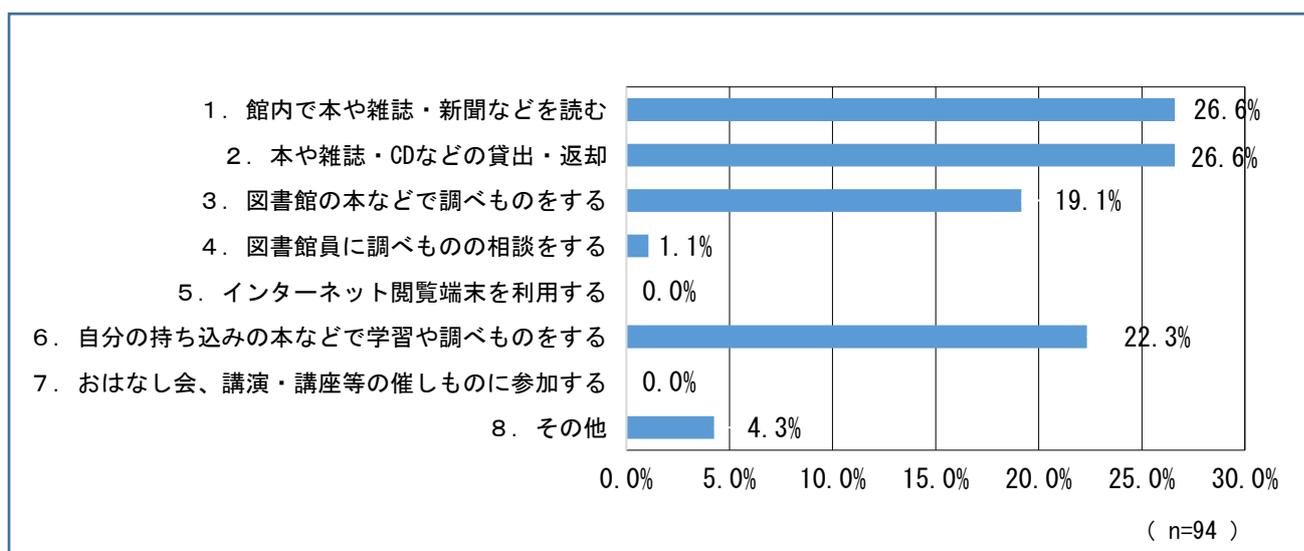


③利用内容

設問：あなたは、図書館を主にどのように利用されていますか。

「1. 館内で本や雑誌・新聞などを読む」、「3. 図書館の本などで調べものをする」「6. 自分の持ち込みの本などで学習や調べものをする」を合わせると68%であり、図書館を居場所として利用していることが伺えます。

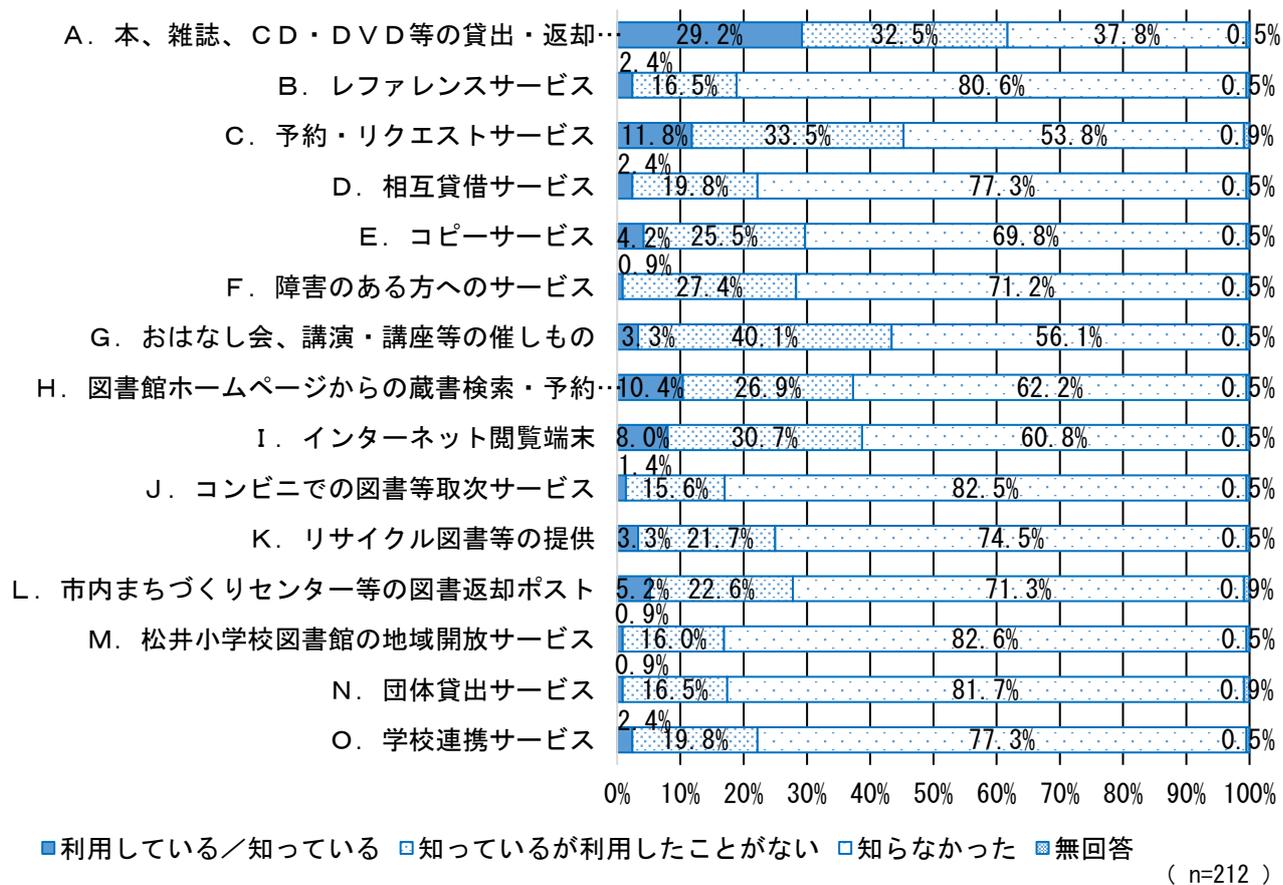
前回調査との比較では、「5. インターネット閲覧端末を利用する」が3.1ポイント減少し、0%となったのは、この年代でスマートフォンが普及したからではないかと考えられます。



④サービス認知度

設問：所沢市の図書館では、A～Oのサービスを行っていますが、あなたのご存知のサービスはありますか。

「A.本、雑誌、CD・DVD等の貸出・返却サービス」については、「利用している」「知っているが利用したことがない」を合わせて61.7%と認知されていますが、その他のサービスについては、半数以上が「知らなかった」を選択しています。前回からの変化は、あまり見られませんでした。

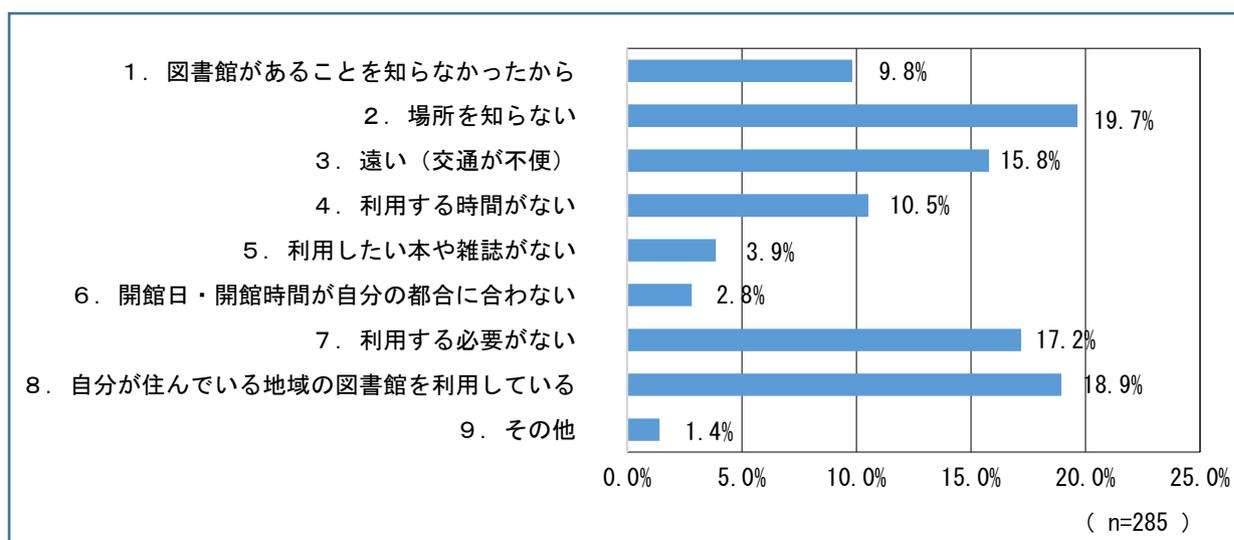


⑤図書館を利用しない理由（複数選択）

設問：図書館を利用されないのは、なぜですか。

「2. 場所を知らない」が19.7%と一番多く、「8. 自分が住んでいる地域の図書館を利用している」18.9%、「7. 利用する必要がない」17.2%と続いています。

前回調査との比較では、「1. 図書館があることを知らなかったから」「2. 場所を知らない」は減少しています。

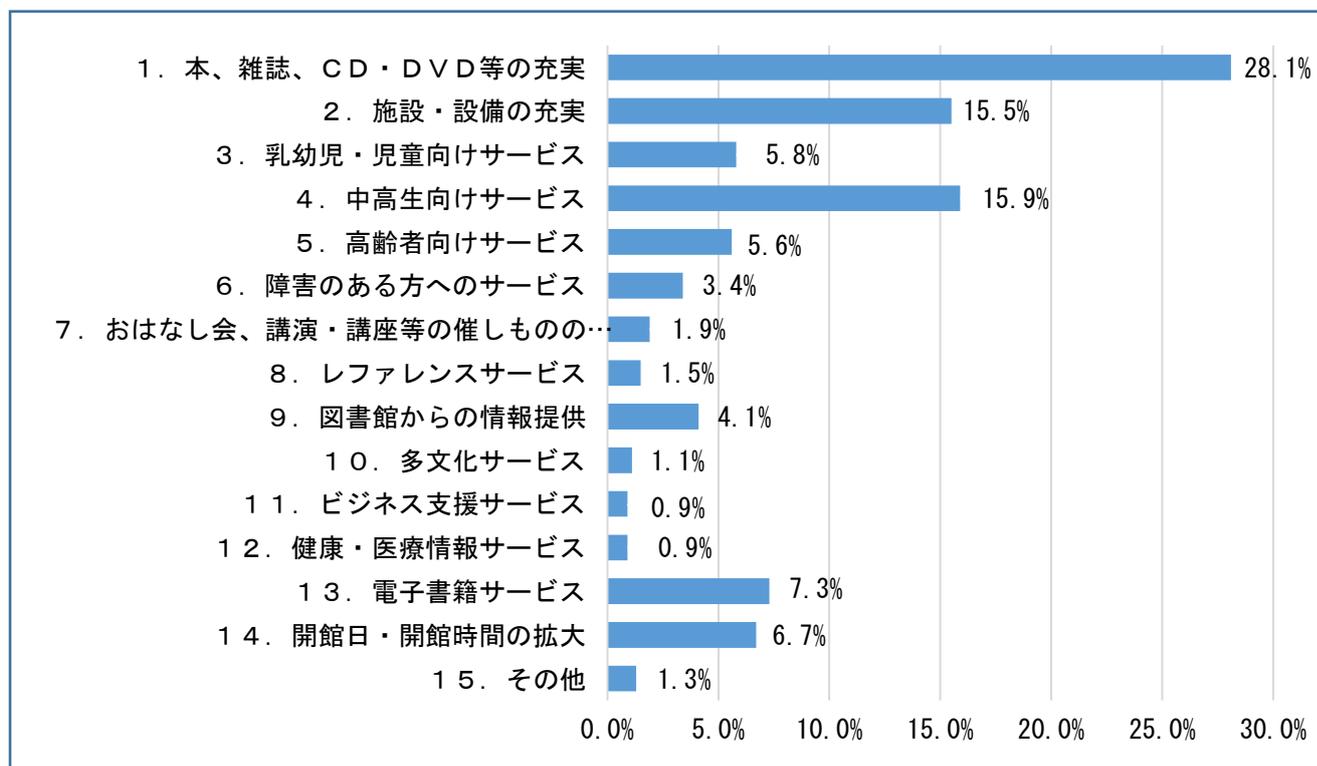


⑥図書館に優先的に望むサービス

設問：あなたが、これから図書館で優先的に行った方が良いと思うサービスについてお聞きします。

「1. 本、雑誌、CD・DVD等の充実」が28.1%と1番多く、次いで「4. 中高生向けサービス」15.9%、「2. 施設・設備の充実」15.5%となっています。

前回調査との比較では、「1. 本、雑誌、CD・DVD等の充実」が9.0ポイント増加しています。



第2次所沢市図書館ビジョン 策定経過

■平成29年度

平成29年	9月	市民アンケート調査案作成
	10月25日	第3回所沢市立所沢図書館協議会（市民アンケート調査について）
	12月1日～31日	市民アンケート調査（一般）実施
平成30年	1月12日～31日	市民アンケート調査（小学生・中学生）実施
	1月19日～2月2日	市民アンケート調査（高校生）実施
	1月21日	利用者懇談会実施（本館）
	2月9日	第4回所沢市立所沢図書館協議会（市民アンケート調査（一般）結果速報）

■平成30年度

平成30年	4月～7月	第2次図書館ビジョン素々案策定準備、市民アンケート調査集計
	7月26日	第1回所沢市立所沢図書館協議会 （諮問：「（仮称）第2次所沢市図書館ビジョン」の策定について）
	8～9月	「第2次所沢市図書館ビジョン」素々案作成
	10月2日	第2回所沢市立所沢図書館協議会（協議：「第2次所沢市図書館ビジョン」素々案） 新委員任命
	10月6日～14日	本館来館者アンケート調査
		分館来館者アンケート調査
	11月	市民アンケート調査集計結果公表 市政情報センター、図書館本・分館、まちづくりセンター、所沢市HP、図書館HP
	11月9日	第3回所沢市立所沢図書館協議会（協議：「第2次所沢市図書館ビジョン」素案）
	11月18日	利用者懇談会実施（本館）
	12月1日～20日	パブリックコメント実施
平成31年	1月	「第2次所沢市図書館ビジョン」（案）作成
	2月	第4回所沢市立所沢図書館協議会（協議：「第2次所沢市図書館ビジョン」（案））
	2月	「第2次所沢市図書館ビジョン」答申
	3月	「第2次所沢市図書館ビジョン」策定

■平成31年度

平成31年	4月	「第2次所沢市図書館ビジョン」公表 市政情報センター、図書館本・分館、まちづくりセンター、所沢市HP、図書館HP
-------	----	---